

第5回 千代田区公園・児童遊園等整備方針検討会における 委員指摘対応表

1. 委員指摘とその対応

(1) 表現・言葉のつかい方について

発言・指摘	委員	検討内容
第2章の4つの課題「多様化する区民ニーズの対応」などについて「対応」が課題であると読めるため、言葉を見直すべきである。	中井 会長	第2章の「区立公園の課題」を「公園をより良くするための4つの視点」という内容に改めた。 以下のような名称に変更した。 視点1 多様化する区民ニーズの実現 視点2 ポテンシャルの有効活用 視点3 全ての人がつかりやすい公園 視点4 様々な主体との連携
この方針における「インクルーシブ」という言葉の範囲を検討するべきである。	中田 委員	インクルーシブについてのコラムを追加。 インクルーシブ遊具の導入やバリアフリーの推進など、様々なニーズに応える公園づくりを目指します。

(2) 第3章と第4章との関連付けについて

発言・指摘	委員	検討内容
第4章と第3章の関係が直感的に分かりやすくなると、とても良い方針案になる。	加藤 委員	第3章は、公園づくりの基本的な考え方として、基本理念及び4方針・15施策に整理した。 第4章は、第3章の考え方から「公園づくりの進め方」として関連付けた。

(3) 未来の公園づくりについて

具体的に「この公園でこれを確約する」といった表現とするのは難しいため、生活に引き寄せて、未来の公園のイメージができるような表現だと伝わりやすい。	伊藤 委員	第3章の4方針・15施策の推進により、将来の公園がどのように変わるのかをイメージし、未来の公園シーンをイラストで表現した。
各公園で、各機能に対してのパラメータみたいなもので表現する方法もある。	中田 委員	
「これが実現したら、私の暮らしはどう変わるのか」という、イメージが伝わるのが大事である。「私の身の回りの公園のある暮らし」を1枚で表現しても良いかもしれない。	中井 会長	